

学力向上に向けた日常の授業改善 ～国語科を軸に、「言葉の力」を高める～

湧別町立湧別小学校 学習部・研修部

1 はじめに

本校は、湧別町学校力向上事業の中心校として、日常の授業改善に継続的に取り組むとともに、授業公開や校内研修を広く発信し、町全体の学力向上を目指しています。本稿では、その実践の概要についてご紹介いたします。

2 授業改善の取組

① 「付けたい力」を明確にした国語科の授業づくり

研修部がリーダーシップを発揮し、指導事項の重点化や授業方法の共有化を図るとともに、実践を校外へ発信し、全町的な授業の改善充実を図っています。

② 学びを生かす場の設定

学習の中で身に付けた「言葉の力」（見方・考え方）を、教科等横断的に活用し、実生活の中で活用できる場を設定することで、学びを実感（自覚）できるように工夫しています。

③ 調査問題や調査結果を活用した授業

全国学力・学習状況調査結果を学校全体で共有し、授業づくりにつなげています。とりわけ、課題の見られた指導事項について、重点的に指導を行ったり、類似問題を作成して繰り返し取り組ませたりするなど、授業の中で活用を図っています。

④ 読書活動と関連させた国語科の授業づくり

町の図書館と連携し、読書環境の整備、地域人材の活用、読書活動と関連させた国語科の単元づくりなど、地域と一緒に取り組む「チーム読書」を進めています。

⑤ 外部講師の活用

小学校国語の専門家である樺山敏郎先生（大妻女子大学准教授）をお招きし、直接、指導助言を受けています。

単元や一単位時間の「ゴールイメージ」や「プロセスデザイン」をもち、授業の中に「クライマックス（山場）」や「教師の出番」をつくり、「3つのZ（時間、字数、条件）を設定して子どもに『自分の考え』『根拠や理由』を書き切らせる」、これらが大切であると教えてくださり、実践を重ねています。

3 成果と課題

- 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果では、国語、算数ともに全道及び全国平均を大きく上回りました。基礎的な知識や技能の習得に加え、それらを活用する力についても伸びてきていることが明らかとなりました。
- 児童質問紙では、「国語や算数の勉強は好きだ」「国語や算数の授業の内容はよくわかる」などの項目で「当てはまる」と回答した児童の割合が高く、いずれも全国を上回っていました。
- 学校全体で、家庭とも連携協力しながら、読書活動を土台として言葉の力を鍛え、子ども主体の楽しい授業、しっかりと力が身に付く学習づくりを進めてきた成果であると分析しています。
- 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善により、子どもの学びに成果が見られ、国語科や算数科における単元テストで9割以上、チャレンジテストでは、全国平均以上の学年が増加しています。
- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、成果の見られた取組と課題の見られた取組の見直しを行い、さらなる学力向上を目指していきます。



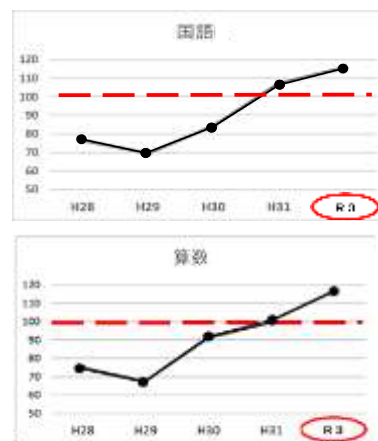
【自分の考えもち、
発言をどんどんつなげて
学び合う様子】



【友達が書いた推薦文を読み
学びのよさを付箋に書く
子どもたち】



【樺山敏郎先生から、
国語科の授業づくりについて、
指導助言を受けた授業づくり研修会】



【全国学力・学習状況調査結果の経年変化】